



鹿浜だより

秋のワクチンシーズン到来！

10月



★新型コロナは終わっていない。

新型コロナワクチン、5類になったのにまだ必要ですか？とよく聞かれます。

高齢者には必要です！とお答えしています。

2024年の1年間で、新型コロナウイルス感染症による入院数は約11万人、死亡者は35800人に上りました。**そのほとんどが高齢者です。**この数は、インフルエンザで亡くなった人（2800人）の15倍に上ります。重症化しやすい高齢者、基礎疾患のある方にとって、新型コロナウイルス感染症はまだ怖い病気です。

★新型コロナワクチンの効果について

2024-2025年度の新型コロナワクチンの有効性に関するデータによると高齢者に対するワクチンの感染予防効果は60日まで56.2% 60日以降で34.8%でした。入院予防効果は全期間通じて63.2%でした。ワクチンの効果はオミクロン株出現以降減少しているとはいえ、**重症化予防効果は十分ある**と考えています。（参考資料：長崎大学熱帯医学研究所VERSUS Study）

★副反応について

新型コロナワクチンの副反応は痛みや腫れが主なものですが、接種後1、2割の方に日常生活に影響が出るような発熱や倦怠感が生じます。これらの副反応はカロナールやロキソニンなどで抑えることは可能ですが、あまり副反応が強い方は無理に打たなくても良いでしょう。

★インフルエンザワクチンについて

2024-2025年度のインフルエンザにかかった人の割合は0歳～19歳が60%を占めました。（入院は4歳以下と高齢者が多い）米国では昨シーズンに過去最多の280人のお子さんがインフルエンザで亡くなりました。その大多数がワクチンを打っていなかったとのことです。今年度は昨年よりも一足早く9月22日の週から流行期に入り、学校や保育園で集団感染も見られています。早めの接種をお勧めします。

★足立区の小児インフルエンザワクチン助成制度について

足立区では今年から6ヶ月～18歳のお子さんに対して**経鼻弱毒生ワクチン（フルミスト）の助成が始まりました。**不活化ワクチンと経鼻生ワクチンに有効性の違いはありませんが、生ワクチンは13歳未満も1回で済むこと、効果持続が1年間であるなどの利点があります。

弱毒化したウイルスを感染させるため、**妊娠中や免疫不全の人は打つことができません。**また、鼻水、鼻詰まりなどの症状が出たり、喘息持ちの人は発作を誘発することもあるので、医師と相談の上接種するようお願いします。



2025年10月	鹿浜診療所		診療体制のご案内			内科・小児科
	月	火	水	木	金	土
午前 (受付開始8:45) 9:00~12:00	櫻井奈緒子 瀧 良輔	平山陽子 瀧 良輔	平山陽子 林 真理子	平山陽子 瀧 良輔	林真理子	平山陽子 (1.3.5週) 瀧 良輔 (1.3.5週) 伊藤友紀 (2.4週)
午後 (受付開始14:45) 15:00~18:00			平山陽子 櫻井奈緒子		神田美穂 瀧 良輔	



◆健康診断・予防接種・乳児健診は予約制です。（ホームページからWEB予約できます）
◆風邪症状のある方は事前にお電話ください。

